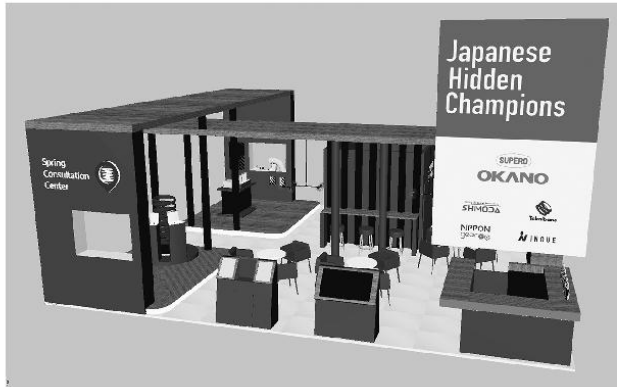


ステンレス・高機能合金流通のイノウエ（本社「東京都千代田区、井上浩樹社長」は、今月27日から3日間、独アテッセルドルフで開催される世界最大のバルブ展「バルブワールド」に、発電所向けバルブ国内最大手の岡野バルブ製造など4社と合同で出展する。海外での展示会参加は同社にとって初。高機能金属粉末を活用したHIP・3Dプリンティングによるバルブボディなどの提案に加え、ブース全体の英語サポートも行う。



展示ブースイメージ

岡野バルブ製造、シモタフランジ、東海パネ工業、日本ギア工業の4社と合同で出展する。今年2月に都内で行われた「次世代火力発電EXPO」で、岡野バルブ製造にブースデザイン

海外展示会に初参加 バルブボディなどPR

イノウエ

を依頼してつながりができ、語学に優れた社員も一助となつて今回の出展に至つた。井上社長は「隣接業種とのコラボをできるだけしていきたいという当社方針の下、参加を決めた。オールジャパン体制で、『優れたバルブ製品および部材を売っていく』という同じ思いを持っている会社をサポートできることが嬉しい」と意気込みを語る。

今回、イノウエは日立金属のオリジナルNi基耐食合金粉末を3Dプリンティングで製造したバルブボディを用意する。日立金属のグローバル技術革新センター（GRIT）から供給されるもので、優れた特性を海外の需要家に向けて広く

訴求する。展示ブースは岡野バルブ製造デザイン事業部による設計で、「Japanese Hidden Champions」がキーワード。イノウエを含む各社は同展示会専用のオリジナルポロシャツ（アンダーアーマー社製）を作成しており、元アメリカンフットボール日本代表の経験を持つ井上社長の人脈を生かす形で、イノウエが制作を請け負った。また、来場者へのノベルティとして御猪口と日本酒の用意を計画するなど、日本流「おもてなし」にも余念がない。1カ月後の開催に向け現在、各社と連携しながら展示内容を詰めている。